

2011年度新卒視能訓練士就業状況調査 調査結果

目的：今後ますます増加する視能訓練士の就業状況を把握するために調査実施する。

対象：第41回視能訓練士国家試験合格者を輩出した全国の視能訓練士養成施設21校。
(大学：6校、専門学校15校)

平成23年3月新卒視能訓練士就業状況調査結果

調査協力施設 大学6校中6校 専門学校15校中15校 全21校

就職先区分	大学	専門学校	全体	前年度増減数
1. 国立高度専門医療センター (ナショナルセンター)	0	1	1(0.2%)	+1
2. 国立大学法人	14	15	29(4.6%)	+6
3. 独立行政法人国立病院機構	5	9	14(2.2%)	+7
4. 公立医療機関(都道府県市町村の 病院及び診療所)	15	16	31(4.9%)	▲5
5. その他国立系の病院	2	3	5(0.8%)	+2
6. 公立大学病院	2	2	4(0.6%)	+1
7. 公立に準ずる病院及び診療所	10	11	21(3.3%)	▲9
8. 私立大学病院	29	14	43(6.8%)	+2
9. 私立病院(他科もある病院の眼科)	30	43	73(11.5%)	▲5
10. 私立眼科病院	10	44	54(8.5%)	+13
11. 眼科診療所(医療法人及び個人)	105	207	312(49.3%)	+16
12. レーシックセンター (レーシックを主にしている眼科診療所)	6	13	19(3.0%)	+13
13. 視能訓練士の学校または養成所	2	1	3(0.5%)	+3
14. 大学院	3	1	4(0.6%)	▲1
15. 福祉関係	0	0	0(0%)	▲1
16. 病院・医院以外の医療関係企業	2	2	4(0.6%)	+2
17. 医療関係以外の職業	0	3	3(0.5%)	▲5
18. 就職せず	6	5	11(1.7%)	0
19. 他大学	1	0	1(0.2%)	+1
20. 他専門学校	0	1	1(0.2%)	+1
合計	242	391	633	+42

今回、調査協力を依頼していた 21 施設、全ての施設から回答がありました。
2011 年度は、633 名の視能訓練士が誕生いたしました。(2010 年度：591 名)
今回の調査結果に基づいて、以下に考察を述べさせていただきます。

1. 全体的には、需要に対して供給が追いついてきている傾向がうかがえますが、未だ眼科開業医からは、視能訓練士が不足しているという声が聞こえてくる状況には変わりありません。毎年新卒視能訓練士の 300 名近く（約半分）が開業医に就職している状況ですが、昨今眼科コメディカルよりも視能訓練士を求める開業医さんも増え、さらなる需要の増加が見込まれているのが背景にあるのではないかと考えられます。

2. 昨年度の調査と今回の調査との比較において大きく変化したところは、今回は特にありませんでした。

また、2011 年度も、需要の多い「11. 眼科診療所（医療法人及び個人）」に就職する方が半数ちかく（49.3%）を占めていますが、眼科診療所には指導する先輩のいない施設も多いことから、卒後教育がより一層重要になってくると思われます。

視能訓練士の認知度は、現場の視能訓練士の活躍や養成施設の高校などへの広報活動、さらに何と言っても視能訓練士協会のかかりのご努力で、年々上がってきていると思われます。現場の印象でも、患者さんの認知度もかなり上がり孫を視能訓練士にさせたいという方がいたり、視能訓練士がいるから受診したなどの声も聞きます。

今後も眼科コメディカルに代わり視能訓練士の需要がさらに多くなると考えられますので、需給委員会では、現在の状況をしっかり把握していき、さらなる需給を模索していく必要があると思われます。